

令和 6（2024）年度 知床半島におけるヒグマ対応状況（速報版）

1. 令和 6（2024）年度のヒグマ目撃件数など

令和 6（2024）年 4 月 1 日～同 10 月 31 日分

	斜里町	羅臼町	標津町	合計
目撃件数	1,034 (1,988) 件	116 (515) 件	40 (82) 件	1,190 (2,585) 件
対応件数	586 (960) 件	129 (482) 件	47 (91) 件	762 (1,533) 件
有害捕獲頭数	18 (80) 頭	4 (66) 頭	7 (13) 頭	29 (159) 頭

※ ()内は前年度同期（令和 5 年(2023 年)4 月 1 日～同 10 月 31 日）の数字
対応件数は電気柵の維持管理作業等を除く

2. 令和 6（2024）年度のトピック（10 月末締め）

- 冬眠明けから初夏にかけて、斜里町及び羅臼町の市街地（ゾーン 4）においてヒグマの出没が発生した。ゾーン 4 における出没は、大量出没のあった昨年度を除き斜里町では平年（2020～2022 年度平均 5.3 件）よりも多く、20 件であった。羅臼町では平年（2020～2022 年度平均 70.3 件）よりも少なく、今年度の市街地（ゾーン 4）への出没は計 46 件であった。標津町では平年（2020～2022 年度平均 2.3 件）よりも多く、4 件であった。
- 有害捕獲数は、5 月と 7 月にピークを迎え、8 月以降は減少した（図 1）。
- 斜里町の市街地近傍の農地においてヒグマの有害捕獲に従事していた実施隊 1 名がヒグマに襲われ負傷する事故が発生した（7/30）。

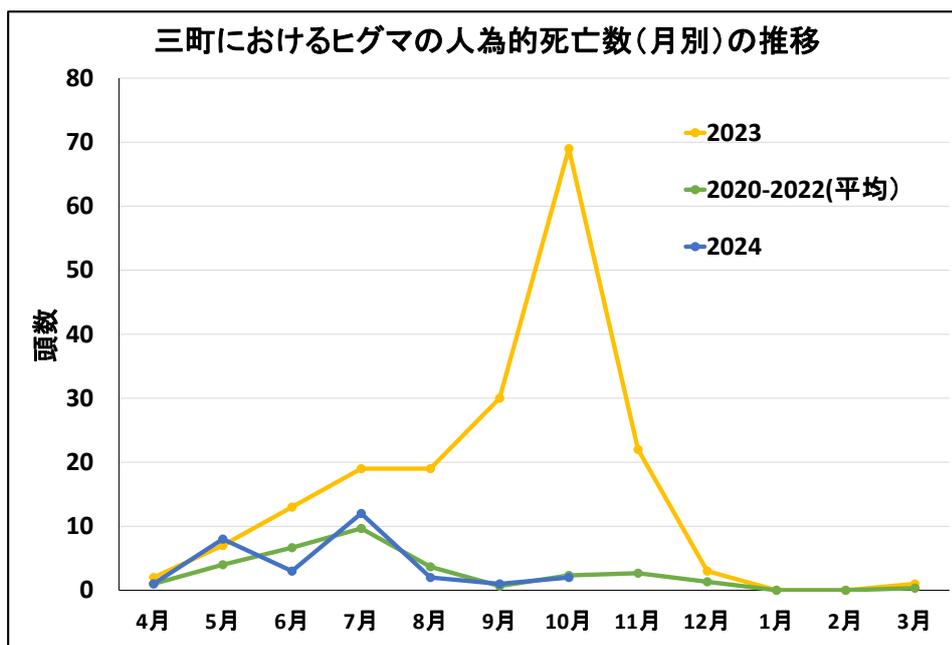


図 1. 三町におけるヒグマの人為的死亡数（月別）の推移

3. 町別対応状況

【斜里町】

- ① ヒグマ目撃件数は10月末時点で計1,034件あり、対応件数は309件であり、昨年より大きく減少した(図2)。ただし、岩尾別地区や知床五湖ではヒグマの目撃が頻発した。
- ② 市街地(ゾーン4)でヒグマの出没が10月末時点で計20件(ウトロ市街地17件、斜里市街地3件)あった(図3)。
- ③ ウトロ市街地(ゾーン4)では昨年度に引き続き、自動撮影カメラによる監視対応や、電気柵・草刈りなどの対策を実施している。今年度より新たにAI判別自動撮影カメラやドローンの導入による対策の強化を図っている。
- ④ 斜里市街地の周辺農地での出没が例年と比較し多い傾向にあった。斜里市街地に隣接する防風林沿いで、5月から7月にかけてヒグマの出没が相次ぎ、住宅敷地に置いてあったビートポットを荒らされるなどの被害も発生した(図4)。
- ⑤ 7月から8月にかけて町内の養鹿施設内のシカがヒグマに食害される事案が複数件発生した。電気柵を追加設置して侵入を防止するとともに、箱わなを使用して2頭のヒグマを有害捕獲した(DNA分析により2頭とも加害個体と判明)。
- ⑥ 7月30日に斜里市街地周辺の農地に隣接する防風林(ゾーン4)にてヒグマの有害捕獲中にハンター1名が襲われる事案が発生した。当該ヒグマはその場で別のハンターに捕殺され、被害者は左額部裂傷10針、左手人差し指2針、左腕擦過傷の怪我を負った(詳細は資料「2024年度知床半島ヒグマ管理計画目標に関する状況」の別紙1を参照)。
- ⑦ 4月29日及び7月11日に知床五湖の高架木道入口付近でオス成獣サイズのヒグマが利用者に対し威嚇突進を繰り返す事案が発生した。7月16日には高架木道入口付近で臨場した対策員に対してオス成獣ヒグマが繰り返し威嚇行動及び威嚇突進を行ったため、関係機関と協議の上、当該ヒグマを有害捕獲した(行動段階3)。
- ⑧ 9月以降、斜里町の岩尾別川周辺で頻繁にヒグマが出没し、多数のカメラマンや利用者が連日川沿いで待機している状態が続いている。さらに、現地の混雑や交通障害が頻繁に発生しており、ヒグマへの接近・つきまとい(出没待機も含む)などの問題行動も確認されている。

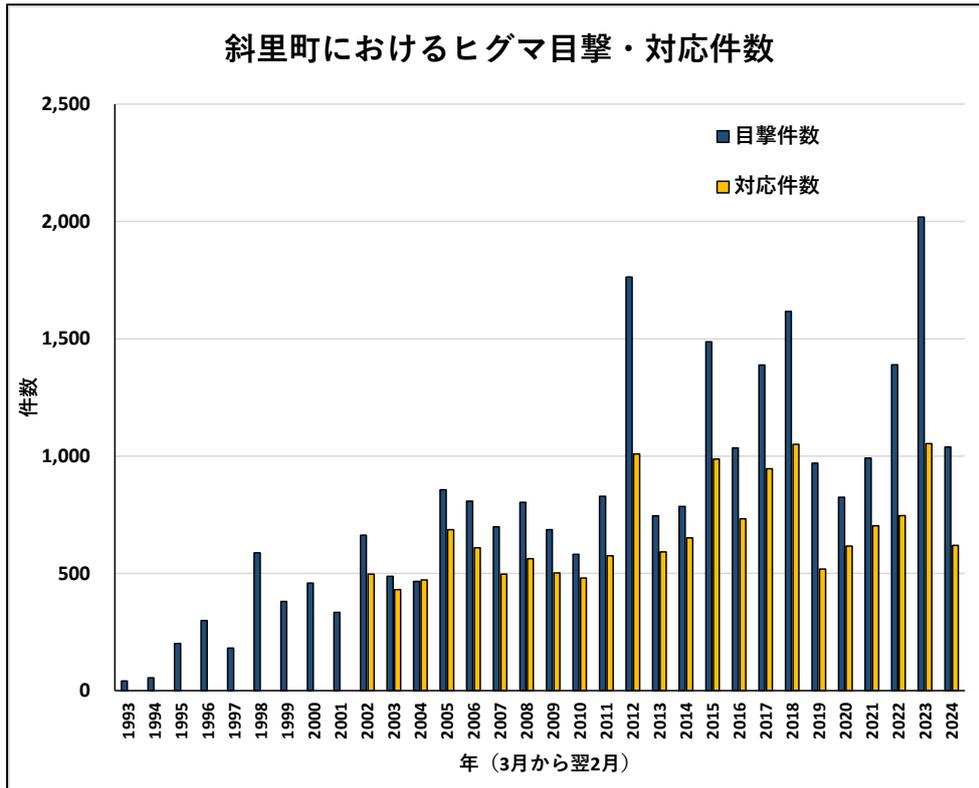


図 2. 斜里町におけるヒグマ目撃・対応件数

※2024 年は 10 月末時点の集計値.

※対応件数は 2002 年から集計を開始.

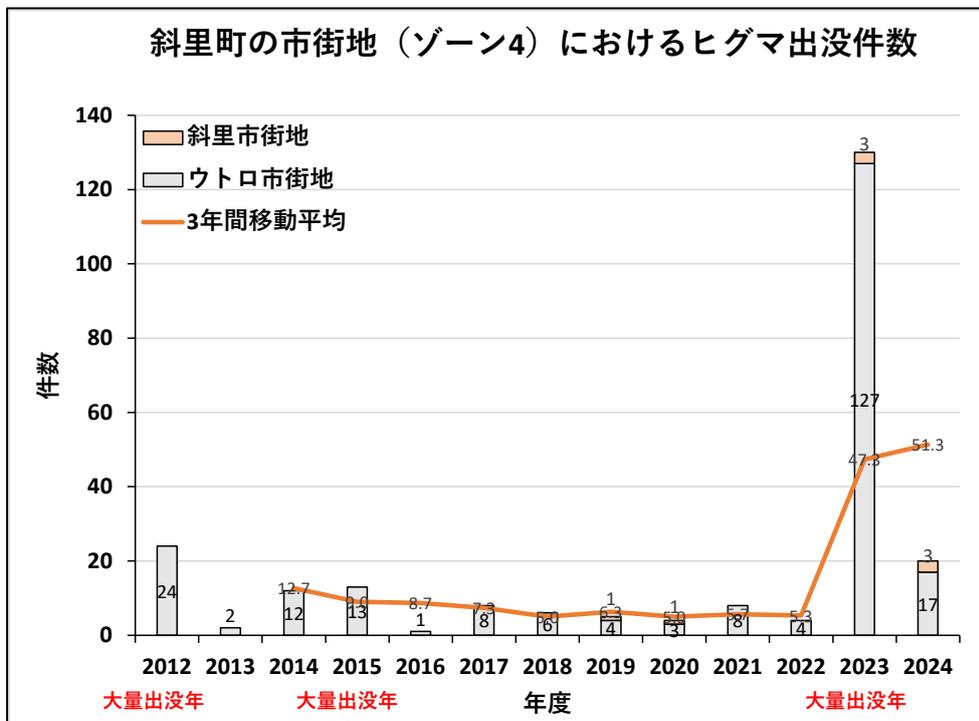


図 3. 斜里町市街地（斜里・ウトロ）におけるヒグマ出没件数（2012～2024 年度）

※2024 年度は 10 月末時点の集計値.



図 4. 斜里市街地周辺の農地におけるヒグマ出没地点（2024 年 5 月～7 月）

【羅臼町】

- ① 羅臼町におけるヒグマの目撃件数は、10 月末時点で 116 件であり、過年度の平均値（2007 年から 2023 年まで）と今年度を比較すると、全ての月において過去の平均値よりも低い値となった。特に、8 月以降の目撃件数はそれぞれ 2 件、9 件、2 件となっており、過年度と比較して著しく低い値となった（図 5）。
- ② 市街地（ゾーン 4）へのヒグマの侵入件数は、目撃を伴うものが 35 件、痕跡のみのものが 11 件で、計 46 件であった（10 月 31 日時点）。前年同日の累計は 254 件（目撃：224 件、痕跡等のみ：30 件）であった。4 月から 6 月にかけて、市街地内（ゾーン 4）におけるヒグマの出没が昨年度を上回るペースで発生していたが、7 月以降はヒグマの出没が落ち着いている（図 6）。餌資源の状況が今年度は昨年度よりもよく、さらには昨年度発生した大量出没による捕殺によって、一時的に個体数が削減された効果であると考えられた。
- ③ 水産加工の残滓や干し魚などがヒグマに荒らされる等の被害は発生していない。市街地へのヒグマの出没は、単純に住宅地内をヒグマが徘徊したり、住宅地裏の草地にヒグマが出没したりするといったケースが多くを占め、地域住民の不適切なふるまいとは関係のない事例であった。
- ④ 各町内会と共同で市街地内のヒグマ対策草刈りを実施した（5 年目）。ヒグマが身を潜める藪の除去及び地域住民のヒグマ対策意識醸成を目的とし、10 町内会で延べ 116 名の羅臼町民及び関係事業者が参加した。
- ⑤ 国立公園内である知床横断道路（羅臼町）において、人を避けないヒグマが出没し、6 月 18 日に有害捕獲となった。過年度において、車両への付きまといやドアミラーの破壊行為などが疑われていた個体が複数いたが、当該個体はそのうちの一頭であることが遺伝子分析によって明らかとなった。

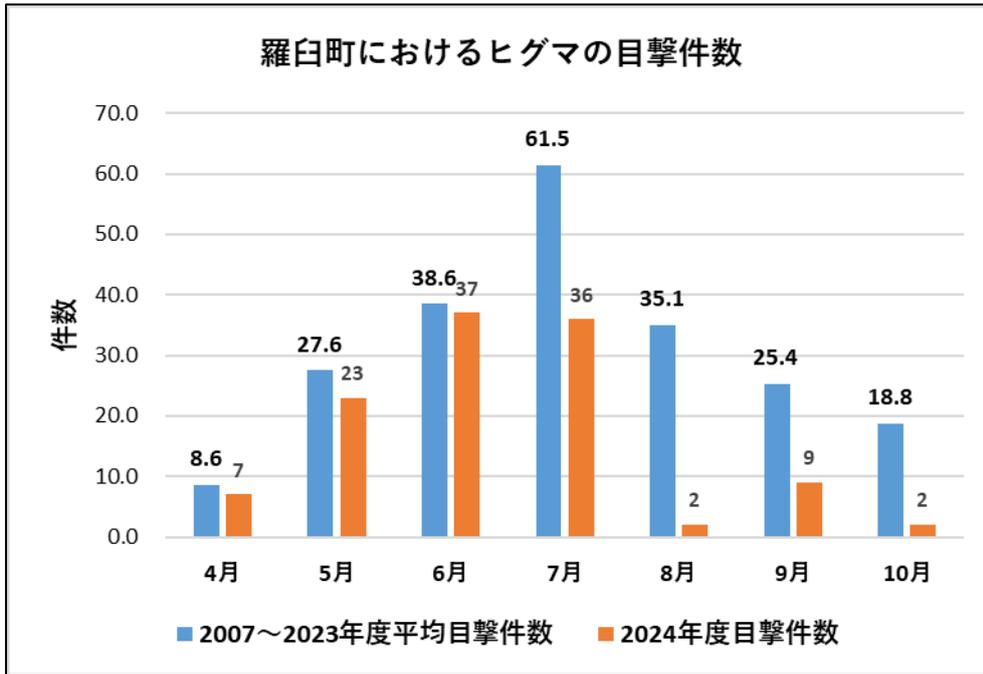


図 5. 羅臼町における月別のヒグマ目撃件数（2024 年度）と平均目撃件数（2007～2023 年度）

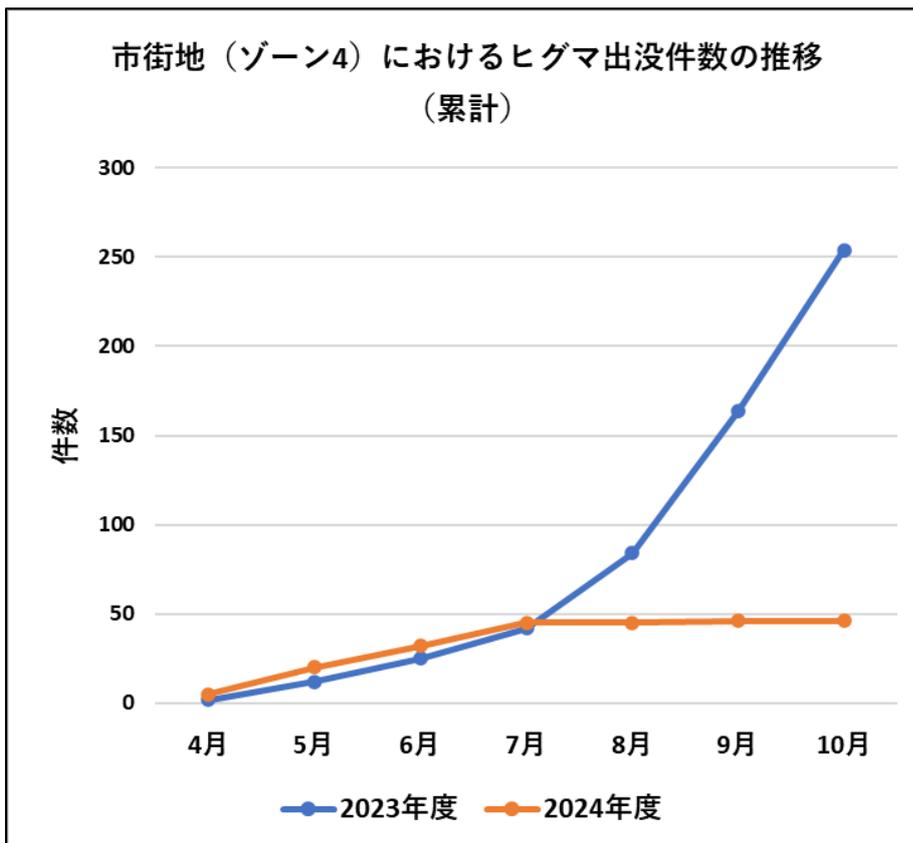


図 6. 市街地（ゾーン4）におけるヒグマ出没件数の推移（累計）

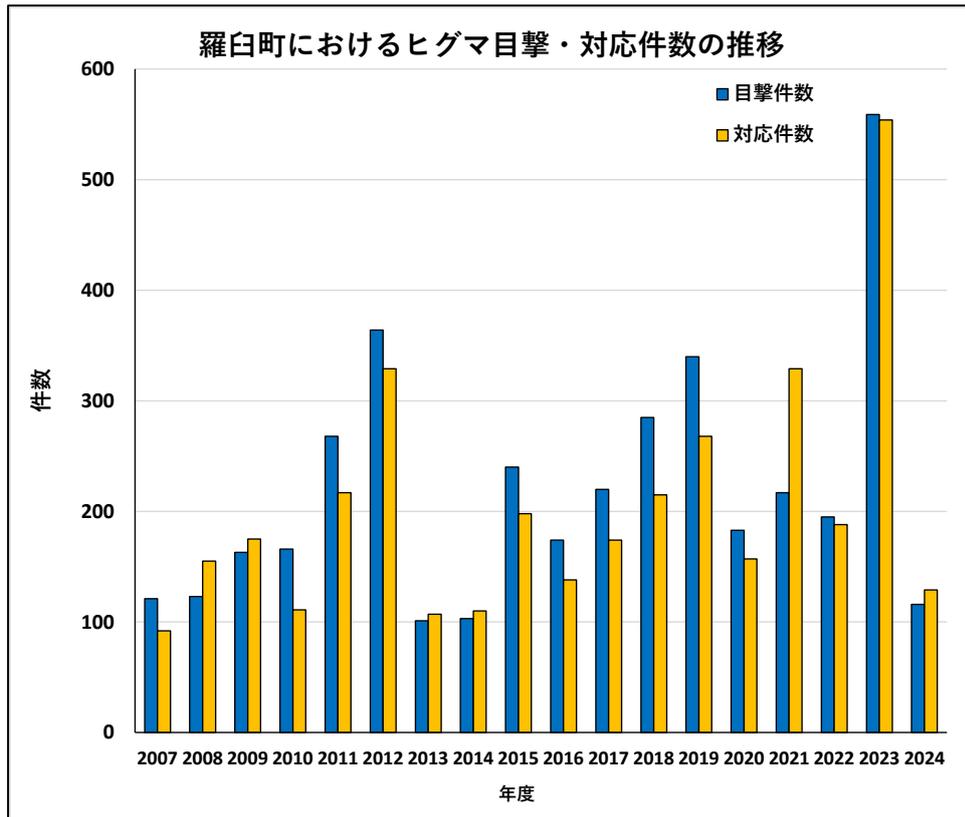


図 7. 羅臼町におけるヒグマ目撃・対応件数の推移（2007 年度～2024 年度）

※2024 年度は 10 月末時点の集計値。

【標津町】

- ① 市街地（ゾーン 4）におけるヒグマの出没（痕跡情報を含む）は、10 月末時点で累計 4 件（前年同日は累計 3 件）となっており、市街地（ゾーン 4）へのヒグマの侵入は昨年より 1 件多い結果となっている。
- ② 今年のヒグマの対応・目撃件数は 2017 年以降最も少なかった。
- ③ 11 月 2 日 17 時半に道道 863 号川北茶志骨線においてヒグマが自動車を攻撃する事案が発生した（図 8）。自動車には住民が乗車していたが、怪我は無かった。車両は中破した。被害者からの目撃情報では、加害個体は推定 100kg の単独個体であったとのこと。当該事故現場では 10 月 21 日にもヒグマとの衝突事故が発生していたが、本件と同一個体かは不明である。

車両に付着した血液から DNA 分析を実施した結果、個体 ID「13HT-08」というオス成獣の個体であることが判明した。この個体は 2013 年に調査機関が実施したヘアトラップ調査により、川北地区のウラップ川上流で初検出されていた。その後、2019 年～2020 年の環境研究総合推進費事業において伊茶仁のポー川やウラップ川でも再検出されている。これまで斜里町や羅臼町で検出された履歴は無かった。

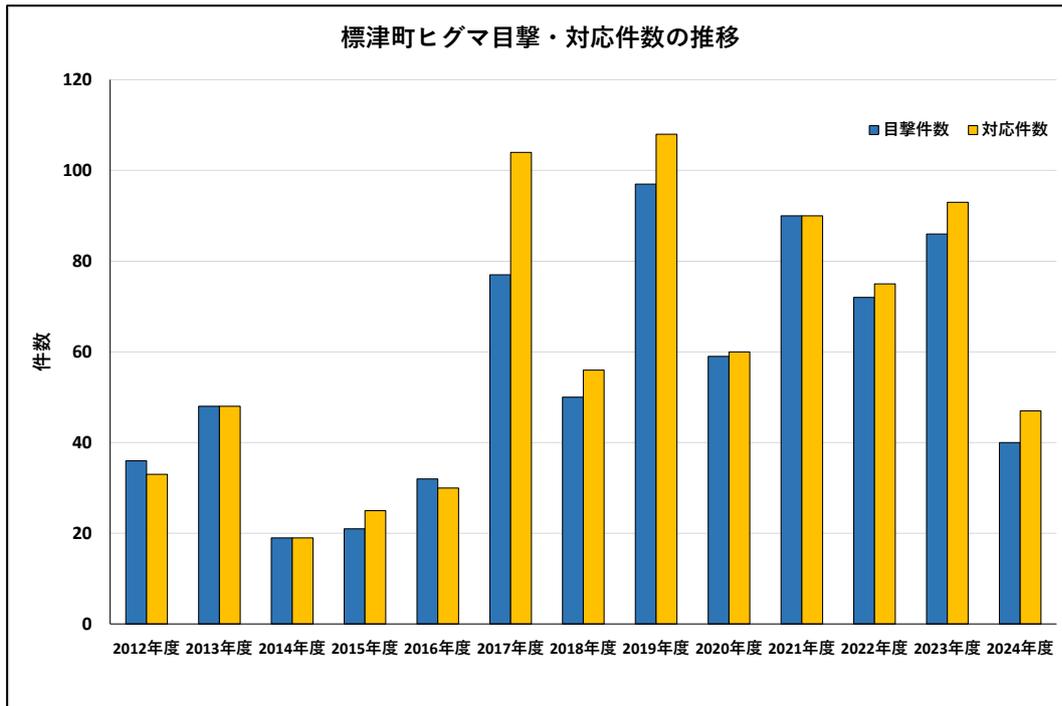


図 8. 標津町におけるヒグマ目撃・対応件数の推移（2007 年度～2024 年度）
 ※2024 年度は 10 月末時点の集計値.



図 9. 11 月 2 日に標津町で発生した事案発生地点